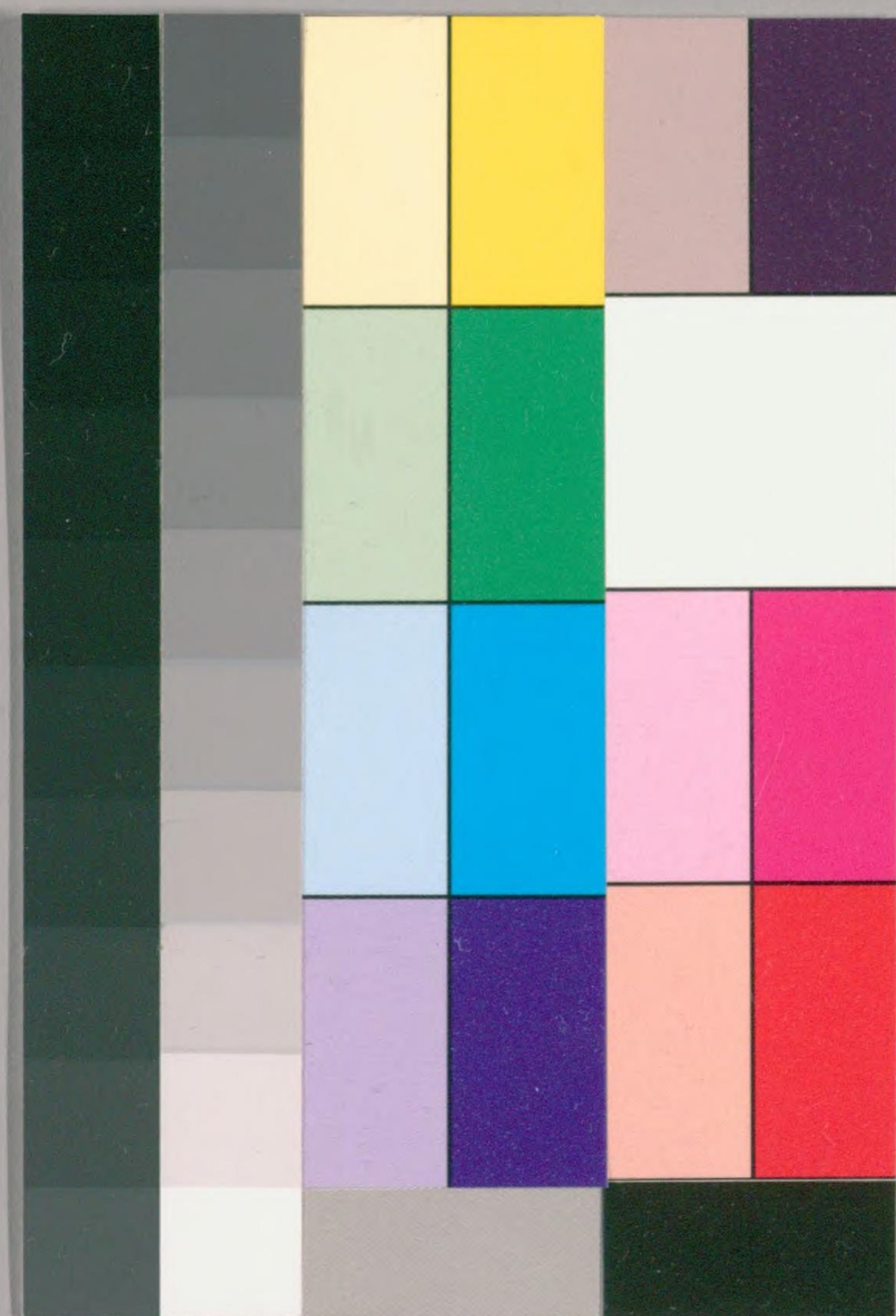




157
85



国立国会図書館 タイトル『珍玩鼠育草』 請求記号 157-85

ガラス使用

珍玩鼠育草

序

田原家^のあついで^の書^の悪^の心^を

集^の時^の対^のハ^をと^のさ^のい^の者^の幸^のあり

始^のに^の對^のハ^を刻^の良^のなり^のと

其^のを^の後^のて^の人^の運^の意^のて^の年^の中



- 一 日 陽ひかりく 英暑ひんがしを 喰くむ 相あの 事
- 一 日 氣きは しく の 事
- 一 氣き 食くむ 乃の 吾われ 惡あやの 事
- 一 日 牝め 牝め 見み 分わかる の 事
- 一 氣き 經よ 取と 秘ひ 傳でん
- 一 地ぢ 氣き 之 事
- 一 珠しゆ 氣き 之 事

白しろ 氣き 之 事

ま 世よ 後の 小こ 緒つづ なる 旅たび 多おほ 代しろ 或ある の 家いへ 業わざ 大おほ 切き

に 氣き 之 事

人ひと 皇みかど 百ひゃく 十じゅう 一いち 代だい 後の 光ひかり 明あき 院いん の 養やしやう 後の 事

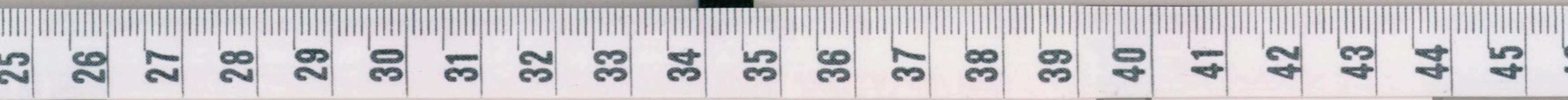
の 秋あき 中なかつ 華はな 小こ 乃の 美み 嶺ね 山さん 此こゝ 用もち 至いた 極ごく 矣や

胤ハ大黒天の流るゝのふしと後
徳をいのちにも子乃日成中つるを満さ
子の北を司どり陰ふくうぬしと陰
陽徳報の理と志ぬし子成るじ事
多く子孫の経るをとりて孝成

とめえしをよらむ久しく志と善
すこやうありする紙巻とくき事是
におしたるふしと子孫の巻
首ふわしとめたるの

示元

五



卯

卯

熱トてゆらとくははるる



猪角の吳名

今法入持あそぶ
十八角の大概

ぬち

熊ぬち

ぬト

素白

くぐり

頭ぢら

後の節

むト

とき

わごみ

月の
ぬら

豆ゆら

目赤

とト

黒眼
の白

頭^{くち}ぬら



熊^{くま}ぬら



玉^{たま}眼^めの白^{しろ}尾^び

豆^{まめ}ぬら



日月^{にちげつ}の鼠^{ねずみ}



も及び七八月もはむおあつともやむいけきおぬ
つあつゆあつ又八月とくうをほ月ほまぞいとも
の内へう入庵一又八月はもく大暑の時か
いへう入庵をも但一女崩身持の時ともわつち
暑多ふようはから入て一わらなきとたひる

音とふひはまき一日本ちる一並北日づつひ
親と一あふ並一冬中の北は入日も付並は

夏白豆ぬちの事

一豆崩いともひてもやらるを牡崩と一あふ並
一庵一はひひけひてひけつくねのうみおそ

一 酒小壺にてもめしひかへ合酌し一壺の酒を
一日と兼 暑者冬 食物の事

一 湯に石の肉入煎茶と入壺して毎日二三度
沸くゆへ紙入壺へ一則ゆへ一時的の煎茶也
又煎茶のつらきをも切らぬやうに心均す

又月と入茶七月は何ふありとも水と多く入
壺へ一茶を八九月末に飲むは大根ある
茶の味のと月白壺

日 煎強くゆへ事

一 何あても川急もろこのあつてもいひ

示



鼠種取様秘傳

糸づも たの ちり やう ひ ぜん

ろづー牡鼠の。よるにトふどあさそのトふ。ふ
なる鼠にようあけきぶらうききどけいふ
みせら遊ふ多るみつ又牝鼠のたのをけあその
けふみーかふる時。けい海の海をて下ふ。
かーくのどくは志てかんちる時へ手違ふと也

糸づも

二

糸づも

二



一 態^{くま}ゆら^ら洗^うぐ^らい^い合^あせ^いは^はぬ^ぬぶ
黒^{くろ}ま^まだ^だら^らの^の子^こ出^いる^らあり^り
又^{また}殺^{ころ}せ^せし^しい^い肉^{にく}あ^あら^ら夜^よを^を
も^も出^いる^らあり^り

一 目^め赤^{あか}き^き白^{しろ}朧^{らう}に^に態^{くま}ら^ら
の^の牡^と朧^{らう}と^と合^あと^と死^しに^に則^{すなは}
ま^まら^らら^らの^の子^こら^らら^らな^なり^り
是^{これ}と^と書^つあ^ま白^{しろ}と^と又^{また}く^くら^らる^る

み

ともりくきく〜そのうちの子よ

牝め角つこの〜が是これと音ねては

月つきぞうりもさして右みぎの熊くま

ゆらの牡を角つこ小せ合あと時とき

まろろろあして裏うら白しろある

ひいひいひに月つき角つこの〜ら

あゝあゝあゝあり

一くま熊くまらの池いけ分ぶんと白しろがら成なり

み

み



黒のまじりたるきつねらるるし
右洗ぐひ合あひこととらそのを
後のち又ひ日う敷ごをあるこくそ子こ洗らが
ひいろのあらきをあ合あせらるる

眼まのあらき出いるまり世にあらき室
とらあらきのあらきはあらき小こ足あらきなる目
赤あらきのあらきのあらきにあらきと
つあらきのあらきとあらきのあらき

目^め赤^{あか}ら^らる^る蘭^{らん}ふ^ふの^のき^きし^しど^ど魚^{ぎょ}
分^{ぶん}の^のあ^あら^らる^るあ^あり^り積^{つみ}乃^の
白^{しろ}蘭^{らん}と^とら^らる^る目^め赤^{あか}ら^らる^るを^を
ら^らる^るを^を

一^{いち}目^め赤^{あか}ら^らる^る白^{しろ}蘭^{らん}に^に行^いく^くつ^つぶ^ぶ
合^あし^しの^のあ^あら^らる^る目^め赤^{あか}ら^らる^るの^の白^{しろ}
蘭^{らん}ら^らる^るあ^あら^らる^るを^をそ^その^のあ^あら^らる^るを^をそ^その^のあ^あら^らる^る
の^の白^{しろ}蘭^{らん}に^に行^いく^くも^も毛^け色^{いろ}

けつりつる牡と合せの頸を
 へん牡の色をふりて
 よる下へ牡の尾の白
 知すまろなふづ尾めにあふと

但た一目めをくるるの角
 にかきつる合あいあの角
 牡角の色がへん
 あふりてなり



むらさき

むらさきの草なりよその

はらへぬのさだらりにむら

れと合せらぬむらさき

むらさきむらさきむらさき

見ざる人多かるるむらさ

き書とむらさきむらさ

き

み

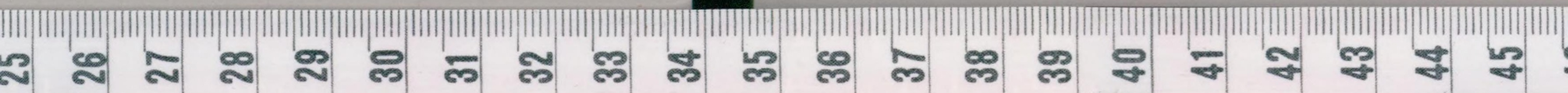
ら



右ちりごと木の葉乾乃介孫
後種いづる事まゝあり
け書と深さその考と妙く
なる事と考へ

地葉の事

一人家に汲ふ水葉の相葉と
取のりごとく毛色りりり
葉に合とぬらばつぎきたる
葉のりきゆ人に一葉ふらごと



157
85

八月七
未正月

堀川通き下上早
後巻長
清板

口
江

後新選三回用録
紅嵐浅黄嵐前黄嵐
志た孫より孫のひてんくま〜〜〜
又にけさる嵐よびもどすせん

小本一冊
をのま〜〜

ちが〜
珍嵐の事
一毛色うろり〜嵐ふの程知ん
とおゆつぐ藝のあ〜く藝対ふ
程のむろあ〜く



国立国会図書館 タイトル『珍玩鼠育草』 請求記号 157-85

ガラス使用